



校長室だより～湘南の空～

第9号

令和4年6月23日

第74回文化祭は素晴らしかった。湘南生が互いの個性を引き出し合い、異なる個性をぶつけ合うことで、全く新しいものが生まれたのではなかろうか。文化祭実行委員会をはじめとする生徒の皆さんの企画力・実行力がなくてはここまでの文化祭は実施できなかったと思う。3年ぶりの一般公開として、食販の感染症対策、入場チケットの配信等、手探りで作り上げた文化祭だ。湘南の行事運営の手本として語り継がれることだろう。心より敬意を表したい。

そして、このような文化祭を支えてくださった保護者や地域の方々に改めて感謝したい。

文化祭二日目、部活動を引退する生徒の言葉は印象的だった。「辛くて泣きたくなくなるような時に支えてくれた仲間感謝する。この経験によってこれからの人生を頑張っていけるとさえ思う。後輩の皆さんは、これからもいろいろな人を勇気づけられるような活動を続けて欲しい。」

湘南生は、自分が想定している以上に成長していく。未来の世界を様々な分野から動かすだろう生徒の皆さんの日々の挑戦を楽しみにしている。

ハシブトガラスのヒナ

6月3日（金）の朝、本校正門、赤木苑に向かって右側の門柱の上で、ハシブトガラスが大きな目を開き、鳴いて威嚇してくる。嘴の中が赤いのでヒナであろう。ハシブトガラスの巣立ったばかりのヒナ（巣立ちビナ）は親鳥と外見では区別できないと言われているが、嘴の中が赤いのが特徴だ。そのまま、門を潜ったところ、一羽のカラスが飛来する。その後も人が通る度に、カラスが鳴きながら頭上を飛び回っていた。春から初夏のカラスの繁殖期には、巣や巣立ちビナの近くを通る人に対して親ガラスが卵やヒナを守るために威嚇や攻撃をすることがあるため、速やかに全校生徒に注意喚起した。その日の午後、カラスの様子を確認するために正門に近づくと、おそらく親ガラスだろう、楠に飛んで来て、嘴で幹を激しくつつき私を威嚇する。もう一羽のカラスが巣のある楠の高い枝から校舎A棟屋上に渡る。巣立ちビナの避難を兼ねた飛行練習か。

6月8日（水）の朝、食堂付近の樺（ケヤキ）から二羽のカラスが鳴き声を響かせ、枝をつついたり、枝葉を噛み切って落したりするなど威嚇してくる。巣立ちビナだろうか、別の一羽はおとなしく枝にとまったままだ。威嚇してくる両親と思しき二羽を観察していると、そのうちの一羽が私に向かって飛んでくる。私が目を離さずにいるとカラスはそのまま舞い上がってA棟屋上にとまって鳴いた。

6月9日（木）の朝、本校自転車置き場側のA棟屋上に数羽のカラスの鳴き声が響く。親子で訓練をしているのだろうか。その日の午前中、自転車置き場付近の電線に二羽のカラス。一羽は私の姿を認めて低空飛行してくる。午後、B棟南側の林から、複数のカラスの澄んだ鳴き声が響く。巣立ちビナが遊んでいるようにも聞こえる。カラスの生活場所は巣のある楠から食堂付近、自転車置き場付近、B棟南側の林と、人通りの少ない場所へと移動してきている。

6月10日（金）以降、カラスの威嚇行動は見られなくなった。親ガラスが子離れしたようだ。カラスにとって巣は卵を産み、ヒナを育てるだけのところなので、ヒナが巣立ってしまえば、もう巣には戻らない。通常、夜を過ごす所はねぐらと呼ばれている。ハシブトガラスの本来のねぐらは、丘陵地や山の中腹の森林。都会では、大型の緑地である公園、神社、お寺などに集まって夜を過ごす。なわばりを持つつがいは、なわばりで昼間を過ごし、まだなわばりの持てない若鳥は小さな群れでそれぞれの採餌場所で過ごし、夕方になると三々五々ねぐら周辺に集まることが知られている。

ヒナを守り抜いた親ガラスに親近感を覚える。本校正門の楠を巣立った若いカラスたちのねぐらはどこにあるのだろうか。

[パンフレット「自治体担当者のためのカラス対策マニュアル」](#) || [野生鳥獣の保護及び管理\[環境省\] \(env.go.jp\)](#)